

# 2025年度 サステナビリティ活動報告



# 目次

■ サステナビリティに関する推進体制	…	2
■ サステナビリティ方針	…	3
■ 未来に向けた5つの重点テーマ	…	4
■ 活動報告		
■ 地球の未来への貢献	…	5 - 8
■ すべての人が活躍する未来の創造	…	9 - 10
■ テクノロジーで新しい未来へ	…	11 -13
■ 人に優しく共に生きる	…	14 -16
■ いつまでも信頼される会社に	…	17
■ グループ会社 主な取り組み	…	18
■ 2026年度 施策	…	19

# サステナビリティに関する推進体制

- 気候変動対応や人的資本投資、人権尊重など、事業の持続的成長および中長期的な企業価値向上に重要な影響を及ぼすサステナビリティ課題について、経営レベルでの適切な監視・監督体制を構築しています。
- テレビ朝日ホールディングス代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティ全般に関するリスクおよび機会について監視や監督を行います。必要事項を常務会に報告し、重要事項と判断された事案については、取締役会へ付議されます。
- サステナビリティ委員会のもとに、「気候変動対応チーム」「人的資本チーム」「人権デュー・デリジェンスチーム」を設置し（※2）、課題ごとに、リスク機会のモニタリング、対応策の検討・実施を行っております。
- SDGs推進室は、サステナビリティに関する全社横断の企画・調整機能を担い、各部門と連携しながら、施策の推進および進捗管理を行っております。また、サステナビリティに関する計画および戦略については、SDGs推進室が取りまとめ、常務会へ上申しています。
- SDGs推進室を支える組織として「SDGs推進チーム」（※3）を設けております。



※1：「常務会」は常勤役員で組織され、業務遂行にかかる協議・報告を行っております。  
※2：気候変動対応チーム、人的資本チーム、人権DDチームの3チームを設置しています。



※3：「SDGs推進チーム」は各局室およびグループ会社から選出された若手から中堅までの多様なメンバーで構成されております。

## サステナビリティ宣言

SUSTAINABILITY STATEMENT

テレビ朝日グループは、「より魅力的かつ社会から求められる情報やコンテンツを提供し夢や希望を持ち続けられる社会の実現に貢献する」という企業使命を實踐し、持続可能な社会の実現とグループの発展を目指します。

### 地球とともに

保有するすべてのメディアを最大限活用し、社会・環境の課題解決に向け、情報を発信し、コンテンツやサービスを提供します。また、企業活動を通して、課題解決に向けた取り組みを推進します。

### 人とともに

互いの人権や多様な個性・価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指すとともに、グループで働く従業員・スタッフがやりがいを持ち、心身ともに安全に働き続けられる環境を保ちます。

### 未来に向けて

法令や社会規範に則った、公正で健全な事業活動を行い、すべてのステークホルダーと良好なパートナーシップを築きます。

# 未来に向けた5つの重点テーマ

## 地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- 目標1 SDGs達成のアクションを起こすきっかけを提供
- 目標2 災害情報の発信及び災害時の地域貢献
- 目標3 資源の有効活用
- 目標4 脱炭素社会に向けた環境負荷の低減

## すべての人が活躍する未来の創造

コンテンツを通して、子供からシニア層まであらゆる世代の人々に“学びの場”を提供していくとともに、その先にある“人々が活躍できる社会”の実現に貢献します。

- 目標1 未来を担う若者を応援
- 目標2 いつでも、どこでも、どこへでも“学びの場”を提供

## テクノロジーで新しい未来へ

テクノロジーの進化により、人々の生活が急速かつ大きく変化するなか、最新鋭の技術を伝えていくとともに、日々の活動にも取り込みます。

- 目標1 新しいテクノロジーおよびクリエイターの発掘
- 目標2 AI・VR・メタバースで新しいコンテンツを創造
- 目標3 業務の効率化および働き方の多様化を図るDX活用

## 人に優しく共に生きる

互いの個性や価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指します。また、従業員のさまざまなライフステージを支援していきます。

- 目標1 人権を尊重
- 目標2 「多様性」を取り入れたコンテンツの制作および発信
- 目標3 多様な人材が「Well-Being」を実感できる会社へ

## いつまでも信頼される会社に

放送局・報道機関として公共的使命を全うするため、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底します。情報提供の充実に努め、経営の透明性を高めるとともに、会社のルールや様々な要請に適う体制を常に構築していきます。

- 目標1 迅速かつ公正、正確な報道
- 目標2 ガバナンスの強化
- 目標3 コンプライアンスの徹底
- 目標4 情報セキュリティ体制の強化
- 目標5 取適法の遵守

# SDGs達成のアクションを起こすきっかけを提供

## 「未来をここからプロジェクト」/特番「4人のおじい奮闘記！」



テレビ朝日では、SDGsへの社会的関心を高める目的で、年2回「未来をここからプロジェクト」を開催し、各番組でSDGs関連企画を集中的に放送しています。



▲ 特番「4人のおじい奮闘記!～輪島スコットランド希望をつなぐ風～」(2025年9月21日放送)

2025年9月21日放送の特番「4人のおじい奮闘記!～輪島スコットランド希望をつなぐ風～」では、能登半島地震等の被害を受けた石川県輪島市で浮体式洋上風力の誘致に挑む地元住民の取り組みと、再エネ先進地スコットランドの事例を通して、地域と共生する再生可能エネルギーの可能性を伝えました。

## レギュラー番組「しあわせのたね。」

貧困や環境などの課題に対し、くらしの中で“はじめの一步”を実践する人々に焦点を当て、誰もが実践できる小さなアクションを紹介しています。

## スポーツ番組でSDGs企画を継続放送

「ラブ!!!リーグ」でサステナビリティクイズや各クラブの取り組みを計5回紹介。「And One」では毎回SDGs企画を放送。廃校リノベや地域農園など身近な事例を継続的に紹介しています。

## NHK民放6局連動企画への参加



「1.5℃の約束」などに参画。アナウンサー有志が「#何もしないと暑くなる」に参加し、気候危機解決に向けた自身の取り組みをSNSで発信しました。

## BS朝日「地球クライシス 第13弾 気候危機 転換への道しるべ～政治は気候変動を止められるのか?～」(2025年9月28日放送)



大洪水、強大な台風、山火事、熱波など、世界の気候変動の現状に迫るシリーズ。気候変動を止めるため、また気候変動に適応するために動き出している人々や企業、地域などを徹底取材し、私たちがこのクライシスを乗り越えるためにできることを、とことん掘り下げています。

## BS朝日レギュラー番組「ウェルビーイング、みつけた」



“ウェルビーイング”それは社会、企業、地域、そして人々を輝かせるための合言葉。そんなウェルビーイングに意欲的な取り組みをしている企業や団体を追いかけ、より良い未来に向けたヒントを発信しています。

## 東日本大震災から15年・ 能登半島地震から2年の記録と継承



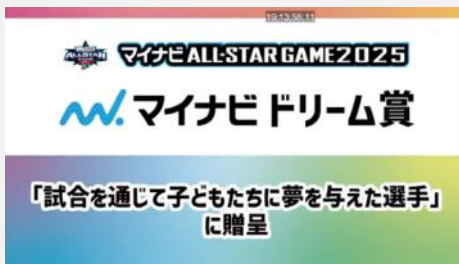
▲ ANN報道特番  
「東日本大震災から15年 災間を知る。」  
(2026年3月11日放送)

災害の記憶を風化させないため、節目の日に合わせた特別番組の編成を継続しています。

● 東日本大震災から15年となる2026年3月11日には、ANN報道特番「東日本大震災から15年 災間（さいかん）を知る。」を放送。自らも熊本地震での被災経験をもつ森山みなみアナウンサーが、次の巨大地震に備える人々取材しました。

- 能登半島地震から2年となる2026年1月1日には、発災時間に合わせて「ANNスーパーJチャンネル」を編成し、北陸朝日放送と連携して復興に向けた能登の現在の姿を伝えました。

### 番組でのチャリティ活動



「マイナビオールスターゲーム2025」では、プロ野球選手・審判員のサイン入りユニフォームをチャリティーオークションに出品し、売上全額を能登半島地震の被災者へ寄贈しています。

## SNSで防災情報を発信



防災意識の向上を目的に、防災士の資格を持つ松尾由美子アナウンサーの発案で、アナウンス部有志による事前防災の啓発動画をSNSで発信しました。ハザードマップの確認や停電・断水への備えなど、身近にできる防災対策をテーマに、企画から制作までアナウンサー自らが担当し、家庭で防災について考えるきっかけづくりを目指しました。

## 帰宅困難者支援体制・地域防災連携

### 社屋を帰宅困難者の一時滞在施設として整備

災害時に帰宅困難者を本社アトリウム・EXシアターで受け入れできるよう体制を整備。地域社会のセーフティネットとしての機能を継続的に維持しています。

### 警察・消防と連携した合同防災訓練

麻布警察署・警視庁との合同テロ対処訓練を本社アトリウムで実施。麻布消防署のスキルアップ講習会や六本木ヒルズの震災訓練にも参加し、地域全体の防犯・防災意識向上に貢献しています。

## 防災教育の普及

### 「テレ朝出前講座」で防災講座の需要が増加

自治体を主な対象とした「テレ朝出前講座」では「災害報道」「地域防災」の希望が増加。報道局出身者の経験を活かした講義により、地域の防災リテラシー向上を支援しています。

## 「マッドリームプロジェクト × art to ART」 切り出した廃材を壁面アートへ



▲「ルネ松戸みのり台 SPACE0」（2026年1月施工）  
什器制作時の木材廃材を壁面装飾に再利用。

「art to ART Project」は、テレビ番組の美術セットから出る廃材を新たなアートへと生まれ変わらせる、テレビ朝日のSDGs×アートの取り組みです。2022年の発足以来、現役の美術セットデザイナーがリーダーとなり、ワークショップや空間演出を数多く手掛けています。

2026年1月には、「art to ART Project」の技術・手法を活用し、総合地所・三交不動産とのコラボレーションにより、千葉県松戸市の分譲マンション「ルネ松戸みのり台」（マッドリームプロジェクト）の共用施設「SPACE0」にクリエイティブラウンジを設置しました。

### 【環境に配慮したデザインの工夫】

- インテリア什器用に切り出した後の板材を壁面装飾として活用し、机・椅子のパーツをすべて切り出した後の残材も無駄なく使用することで材料ロスを最小化。
- 壁面にはめ込まれたパーツを組み合わせてテーブルや椅子を創り出せる機能も搭載し、什器と空間の一体感を追求したデザインを実現。



**木材ゼロ・紙100%のスタジオ制作**  
ミラノ・コルティナオリンピックの現地スタジオセットを段ボール素材で設計・制作。輸送費・建築費・廃棄費用を大幅削減し、制作現場における廃棄物削減の新たなモデルを確立しました。

**美術セット廃棄物の削減への取り組み**  
フルバーチャルセットの活用により、従来の美術セット制作で発生していた廃棄物の削減に取り組んでいます。本取り組みは「世界バドミントン」「SoftBank ウィンターカップ」「ABEMA WRC」「ABEMA ボートレース」にて実施しました。

### 制作ハンドブックのデジタル化

世界水泳シンガポール、ミラノ・コルティナオリンピックにおいて、これまで300冊以上印刷していた制作ハンドブックをクラウドステージを活用したデジタル運用に切り替え。A4用紙約6万枚の削減を実現しました。

### 放送用ディスク（XDCAM）のリユース

過去素材テープ（18万本以上）をデータ化する際、使用済み放送用ディスクを初期化・再利用した「リユースディスク」を活用。資源の有効利用とコスト削減を同時に実現しています。系列局へのリユース販売も継続中。

## 再エネ100%を目指す 環境配慮型エンターテインメント施設 「東京ドリームパーク」



▲ 東京ドリームパーク  
再生可能エネルギー・緑化・EV充電設備など  
環境配慮型設備を多数導入。

2026年3月27日、江東区有明にオープンした「東京ドリームパーク」は、脱炭素社会の実現と生物多様性の保全に配慮した次世代型施設です。2026年4月1日より再エネ電力の購入契約を開始し、年間100%達成を目指しています。グリーン電力証書の交付も予定されており、再エネ利用の透明性向上も図ります。



▲ バイクシェアポート

屋上には太陽光パネルを導入するほか、行政基準を上回る敷地内の緑化や、風力と太陽光を組み合わせたハイブリッド型街路灯などを施設内に多数設置しています。  
また、来場者の環境負荷低減を促進するため、地下駐車場にはEV急速・普通充電器を整備。車利用の減少によるCO2削減効果が期待されるバイクシェアポートも設置するなど、多角的なアプローチで環境配慮型施設としての価値を高めています。



### ハイブリッド型街路灯

#### 風力+太陽光によるクリーンな照明

施設内の街路灯には風力と太陽光を組み合わせたハイブリッド型を採用。電力グリッドに依存しない自立型の照明システムとして、施設全体の環境負荷低減に貢献しています。

### 気候変動・生物多様性への配慮

#### 緑化率約48%・100種以上の植物を導入

鳥や虫が自然に集まる環境づくりを目指し、ヒートアイランド対策にも配慮した植栽計画を実施。都市における気候変動適応と生物多様性の保全を両立しています。



## Tech Kids Grand Prix — 国内最大の小学生プログラミングコンテスト

### 「21世紀を創るのは、君たちだ。」 2018年から続く子どもたちへの挑戦の場



▲ Tech Kids Grand Prix  
(CA Tech Kidsとの共催)

株式会社CA Tech Kids（サイバーエージェント子会社）との共催事業として、国内最大の小学生向けプログラミングコンテスト「Tech Kids Grand Prix」を毎年開催しています。「21世紀を創るのは、君たちだ。」をスローガンに掲げ、次の3つの観点から審査を行い、その年の日本No.1小学生プログラマーを決定します。

- VISION（掲げる夢）
- PRODUCT（創造的な作品）
- PRESENTATION（社会への発信）

2025年度は系列局5局（山形テレビ・広島ホームテレビ・瀬戸内海放送・熊本朝日放送・大分朝日放送）に運営協力局が拡大し、全国規模での展開を推進し、地域の子どもたちへの普及を進めています。

## Girls Meet STEM — 女子中高生の理系キャリア支援

### テクノロジー部門の女性社員との座談会



山田進太郎D&I財団の取り組み「Girls Meet STEM」にテレビ局として初参加。女子中高生がSTEM分野への理解を深め、自身の将来の選択肢を広げるきっかけとしていただけるよう社内見学やテクノロジー部門で働く社員との交流を実施、理系分野で働く姿を身近に感じていただく機会を提供しました。参加した生徒からは「進路を考えるヒントになった」「テレビ局には多様な仕事があると知り視野が広がった」などの声が寄せられました。

### 館内見学・JSEC

#### スタジオ・科学コンテストで学びを提供

「館内見学」は小学校～大学院生を対象に、2025年度は1,712名（254団体）が参加。累計7,200団体・58,000人以上が来場。「JSEC2025」では高校生・高専生科学技術チャレンジに共催し「テレビ朝日奨励賞」を贈呈しました。

### 新人シナリオ大賞・BooSTAR

#### クリエイターとスタートアップの次世代を発掘

「第25回テレビ朝日新人シナリオ大賞」を開催し、次世代クリエイターを育成。スタートアップ企業や新規事業を紹介する「BooSTAR-スタートアップ応援しませー」を放送し、若い挑戦者を社会に発信しています。

出前授業・テレ朝出前講座

## 在京キー局初の取り組みが 20年で参加者20万人を突破



▲出前授業（2025年度）在京キー局初の取り組みとして2005年にスタート。

テレビ朝日は、2005年より在京キー局初の取り組みとして「出前授業」を開始。情報学習・職業体験など総合学習の支援を目的に、小学生から大学生を対象とした授業を学校・施設へ出前しています。2025年度は75回実施、6,358人の児童・生徒・学生が参加しました。

自治体を主な対象とした「テレ朝出前講座」は、2025年度43回実施・1,343人が参加。「災害報道・防災講座」「話し方・コミュニケーション講座」「子ども向け体験講座」など多彩なテーマで展開。対面・オンラインのハイブリッド体制により、関西・海外・オンラインフリースクールにも対応しています。

**20万人**

累計参加者数  
(2025年度突破)

**6,358人**

出前授業  
2025年度参加

**1,343人**

出前講座  
2025年度参加

### テレビ塾

#### 番組の舞台裏を届けるテレビ体験イベント

「テレビ塾」を3回実施。「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」「報道ステーション(スポーツ)」「ワールドプロレスリング」の舞台裏を紹介。テレ朝動画でのべ視聴回数は1万7,115回に達しました。

### がんシンポジウム(第5弾)

#### 世界をリードする医師が最新のがん治療を解説

国民2人に1人ががんになる時代に、世界の医師たちが最新知見を丁寧に解説するがんシンポジウムを第5回目として開催。がん遺伝子パネル検査・再発リスク・早期発見の最前線を紹介。全国癌治療学会が後援。

### FTS(FUTURE TALENT STUDIO)

#### 電通・テレ朝・Forbes Japan 3社共同で人材育成

スタートアップによる新産業の創出と既存産業のイノベーションの両立を理念に、電通・テレビ朝日・Forbes Japanの3社で「FTS」を発足。未来の担い手を多角的に応援しています。

### テレビ朝日福祉文化事業団

#### プログラミング体験・高齢者施設訪問など

CA Tech Kidsと連携した児童養護施設の小学生64名へのプログラミング体験学習を支援。また、高齢者施設への歌謡ショー訪問(年11回)・シルバードイスコ助成(年2回・各200名超)など幅広く展開。

# 【テクノロジーで新しい未来へ】 AI・XRで新しいコンテンツを創造する

AI・VR・AR技術を番組制作・スポーツ中継・プロモーションに積極的に活用し、放送の可能性と視聴体験の拡張に挑戦しています。

## XR・AIを活用したコンテンツ展開



### 大型番組・スポーツ中継でのVR・AR演出

「選挙ステーション」「タモリステーション」「ミラノ・コルティナオリンピック」「サッカーワールドカップ最終予選」「M-1グランプリ2025」「国民番付」など多数の番組でVR・AR技術を活用した演出を実施しました。



### メタメタ大作戦2025・XRキッズワークショップ

出資先「クラスター」とメタバースイベントを開催し、対話型「AIエージェントゴーちゃん。」を開発。出資先「STYLY」とXR体験キッズワークショップも実施しました。



### 番組・プロモーションへの生成AI実装

「ガリベンチャーV」でのAIアバター、「タイムレスランキング」でのAIアニメ制作など、次世代ワークフローを実現しています。

## AI・生成AIによる新たな視聴体験と社内展開



### 水泳AI「アキア」の活用

「世界水泳シンガポール2025」では、10年分の大会情報・記録をインプットした水泳AI「アキア」が優勝者を予想。解説者との予想対決で海外選手レースへの目線付けを行い、水泳中継の新たな可能性を見出しました。



### 自社IP×生成AI『相棒24』プロモーション

過去の豊富な写真データに生成AIを掛け合わせた『相棒24』のプロモーション動画制作など、自社IPと最新テクノロジーを融合させたコンテンツ展開を推進しています。

### AI人材育成・全社AI活用推進

「AIエキスパート育成研修」の実施や「AIショート動画コンテスト」の全社開催、社内AIチャット「Go-chat」の機能強化に加え、AIアバターを社内イベントで体感できる機会を設けるなど、社員のAI利活用促進を多角的に推進しています。

### AI・DXツールによる業務変革の実績

## 全社的なデジタル活用の推進

### 業務の正確性と効率化への取り組み

報道・制作現場において、情報の確認作業を支援する内製ツールの導入や、AIによる素材管理の自動化などを進めています。こうした試行錯誤を通じて、情報の正確性を維持しながら、日々の定型業務の効率化を図るための基盤づくりに取り組んでいます。

### 現場の知見共有とコミュニケーション

部署を越えた共有プラットフォームの活用により、現場のノウハウを可視化し、組織全体で課題解決に取り組む文化の醸成を進めています。導入以来、多くの社員が参加し、自発的な情報交換が行われています。

### 柔軟な制作体制の構築

リモート技術を活用した番組制作（リモートプロダクション）の導入など、中継現場の効率化と、スタッフの柔軟な働き方を両立させるための環境整備を継続的に行っています。

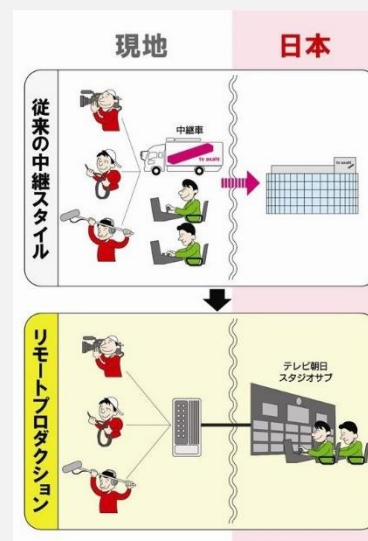
### グループ全体での事務業務の効率化推進

RPAやローコードツールを導入し、日々の定型業務のデジタル化を進めています。自社で培った自動化のノウハウをグループ各社へも共有することで、各種申請や資料の電子化を推進。グループ全体で事務負担の軽減とペーパーレス化に取り組んでいます。

### 番組制作におけるDX推進事例

## 「世界水泳シンガポール2025」 リモート中継

充実したネットワーク環境を活用したリモート中継を実施し、現地への制作派遣人数は前回大会比59%減に成功しました。また、映像・音声のIP伝送技術を活用することで中継機材の輸送量も大幅に削減し、CO<sub>2</sub>排出量の低減と制作コストの削減を同時に実現しています。



▼リモートプロダクション  
東京本社からリモートコントロールで中継機器を操作。現地スタッフを削減しつつ、柔軟な働き方を実現。



### 制作現場のペーパーレス化

番組制作の現場において、電子端末の活用や専用アプリの導入によるペーパーレス化を推進しています。情報のリアルタイムな修正・共有を可能にすることで、準備作業の負担軽減と資源保護の両立を目指しています。

## INTER BEE AWARD 2025 審査委員会賞受賞

### AI生字幕制作システム「J-TAC Pro」 3名体制をAI+1名に。認識精度98%以上を達成

株式会社テレビ朝日クリエイトが開発したAI生字幕制作システム「J-TAC Pro」が、2025年11月「Inter BEE 2025」において「INTER BEE AWARD 2025」審査委員会賞を受賞しました。

高精度な音声認識・AI自動改行など複数のAI技術を組み合わせ、生放送番組における字幕テキスト制作をリアルタイムで効率化。従来3名体制の作業をAI+1名の校正者による体制に変え、大幅な省力化を実現。ニュース番組では単語登録により98%以上の音声認識精度を達成しています。テレビ朝日では「グッド！モーニング」「ANNニュース」などの番組に導入・活用しています。



## 最先端技術の共有と発信

### 社内技術展示会『ゴーテック2026』の開催

テレビ朝日社内関係者向けの「ゴーテック2026」を開催し、グリーンバック不要のCG合成技術「ヒューマンキーヤー」、「ニューステロップAI」、「AI試合ハイライト自動編集ツール」など多くの最新技術を共有しました。



▲ゴーテック2026「ヒューマンキーヤー」（2026年2月開催）  
グリーンバック不要で屋外でもCG合成が可能な人物像認識AI技術を展示。

### KDDIスマートドローンと広域ネットワークを構築

テレビ朝日とKDDIスマートドローン株式会社は、ドローンポートを活用した遠隔操作による災害報道の実現に向けた取り組みを開始。石川県能登半島から全国への広域的な災害報道ネットワーク構築を目指しています。

### 触覚データ化の最新テクノロジーをCSで発信

CSテレ朝チャンネルで「近未来開発中」（全5回）を2026年3月5日～放送。言葉では説明できない「手触り」や「コツ」をデータ化するFEEL TECHを紹介。世界遺産の感触の再現など、感覚の未来を伝えています。

【人に優しく共に生きる】  
**人権の尊重と多様性を取り入れたコンテンツ発信**

互いの個性や価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指して、番組・組織で取り組みを推進しています。

**2025年度 受賞コンテンツ — 多様性・人権テーマで国内外から高い評価**

第30回 アジア・テレビジョン賞 最優秀賞/ニューヨークフェスティバル2025 銅メダル  
テレメンタリー2024 **「WITH YOUR LIFE**

**～私にしかできない幸せの選択～**



ALSと診断されたクリエイター・武藤将胤さんと、妻・木綿子さんの9年間の追ったドキュメンタリー。病と向き合いながら「自分にしかできない幸せ」を追求する夫婦を通じて、いのちの尊厳や多様な生き方を、株式会社フレックスが丁寧に描いた作品。

『ヤング映像クリエイターを励ます賞』ホープ賞

**「日本のチカラ ママの夢は金メダル ～音のない世界に生きて～**



先天性難聴の卓球日本代表・亀澤理穂選手に密着したドキュメンタリー。育児と競技を両立しながら夢を追う姿を通して、デフスポーツへの理解とインクルーシブ社会の重要性を、テレビ朝日映像株式会社が真摯に発信しています。

**人権デュー・デリジェンス**

**グループ会社に対象を拡大し人権DDを実施**

人権DDの対象をグループ会社に拡大し人権リスクを特定。グループ全社員・役職員を対象に人権セミナー「マネージャー層に求められる人権意識」「ダイバーシティは戦略だ」などを開催しています。



第7回 JAPAN PODCAST AWARDS Spotify EQUAL賞  
ポッドキャスト

**「ホンマのホンネ～わたしたちのモヤモヤニュース会議～」**

女性のキャリアと自立・多様性・社会との向き合い方というテーマを通し、EQUALの理念を力強く体現している点が高い評価を受けました。



第31回 平和・協同ジャーナリスト基金賞 奨励賞

第29回 女性文化賞（松原文枝監督）

キネマ旬報ベスト・テン 文化映画 第2位

日本映画ペンクラブ賞 文化映画部門 第1位

**ドキュメンタリー映画「黒川の女たち」**

戦時下で若い女性たちが"性の接待"を強いられた歴史に向き合い、長く語られることのなかった証言を記録した作品。ジャーナリズムや映画界からもその歴史的記録の重要性が広く認められました。

**台本チェックにダイバーシティ視点**

**審査委員会で81事例・うち23事例が人権関連**

ドラマ・バラエティ・アニメ等の台本事前チェックや表現審査において、特にダイバーシティの視点から丁寧に説明・助言。審査委員会（年10回）で計81事例を取り上げ、うち23事例が「差別・人権・ジェンダー平等」に関するものでした。

## SDGs×ボッチャ

### 誰もが参加できる場をつくる

#### 2025年度は全6大会・約400名が参加

渋谷ボッチャ協会・渋谷ウェルネスコンソーシアムとともに実行委員会を組織し、「ボッチャ マンスリートーナメント in SHIBUYA」を2025年10月にスタート。年齢・性別・障がいの有無にかかわらず参加できるパラスポーツを通じ、多様性・地域貢献・持続可能性の実現をめざしています。延べ116チーム・約400名にご参加いただきました。



▲ ボッチャ マンスリートーナメント in SHIBUYA (2025年10月～)  
渋谷ボッチャ協会・渋谷ウェルネスコンソーシアムと共同で実行委員会を組織。

## 多様な人材の活躍

### 障がい者採用ホームページをリニューアル

障がい者採用ホームページをリニューアルし、アクセシビリティに配慮したデザインで応募希望者が安心して一歩を踏み出せる採用情報を発信しています。

## テレビ朝日福祉文化事業団

### 母子生活支援施設交歓会

#### 千葉県母子生活支援施設・約200名が参加

10月26日に八景島シーパラダイスで千葉県母子生活支援施設交歓会を開催。千葉県内の施設に在籍する母親や子どもたち約200名が参加し、親子のふれあいや子どもたちの健やかな成長と母親のリフレッシュを目的として支援しました。

### 障がい者就労支援「ジョブポンプロジェクト」

#### 古書約2,500冊を障がい者就労施設へ寄付

古書を回収し障がい者就労施設に送付。施設でのクリーニング・梱包作業を通じて障がい者に賃金を支払う仕組みです。テレビ朝日総務局・SDGs推進室と連携しながら支援。今年度は約2,500冊の古書を寄付しています。

### 医療的ケア児支援事業

#### 全国の医療的ケア児・者とその家族を支援

「全国医療的ケアライン」が開催する家族交流会に助成。9月12日、東京ディズニーリゾートのホテルミラコスタに全国から約50名の医療的ケア児とその家族が集まり、ディズニーキャラクターとのグリーティングや食事会を行いました。

## ワークライフバランスの推進

育休・休暇・エンゲージメントの実績

男性育休取得率

**100%**

全対象者が取得

男性育休

平均取得日数

**64.1日**

女性育休後復職率

**100%**

継続達成

夏休み5連休取得率

**97.1%**

前年度比 +0.3pt

働きがいを感じている人の割合

**73.0%**

前年度比+2pt

育休支援の一環として、社員が自身の育休経験をもとに社外講演に登壇。育休の価値を「家庭だけでなく組織の成長にもつながる取り組み」「最高のリスクリング」として企業全体の働き方改革を後押ししています。

## 多様な人材の活躍支援・Well-Beingの向上

### ■ 研修

階層別研修、労務管理セミナー、ライフプランセミナー、人権セミナー（「性的マイノリティを私たちはどう伝えていくか」「ダイバーシティは戦略だ」）を実施しています。

### ■ 健康経営

健康月間（5月・11月）を設定し、自律神経チェック・血管年齢測定・脳トレ等の健康チェックイベントを開催。産業医によるラインケア研修とセルフケア動画を通じて、春にラインケア・秋にセルフケアを学ぶ年間サイクルを構築しています。

## 技術系現場における女性活躍の推進

近年、技術・美術系の現場において女性スタッフの活躍の場が広がっています。こうした変化をさらに後押しすべく、技術系関連スタッフ（グループ・協力会社を含む600名以上）を対象にアンケート調査を実施し、その結果をもとに以下の改善施策を推進しました。

### ■ 職場環境・設備の整備

現場の声をもとに、女性専用仮眠室の新設、トイレ個室への着替え用スペースの設置、更衣室拡充など、より使いやすい環境づくりを段階的に進めました。

### ■ 生理用品の無料提供

長時間収録や生放送など、席を離れにくい制作現場の特性を踏まえ、生理用ナプキン無料提供サービス「OiTr」をスタジオ近くの女性用トイレに設置しました。

### ■ コンプライアンス研修の実施

管理職・現場チーフクラスを対象に、ハラスメントの予防・対応をテーマとした研修を複数回実施し、延べ約180名が参加しました。誰もが声をあげやすい職場風土の醸成を図っています。

【いつまでも信頼される会社に】

## ガバナンス強化・コンプライアンスの徹底・公正な報道

放送局・報道機関としての公共的使命を全うするため、経営の透明性を高めガバナンスとコンプライアンス体制の強化を推進しています。

### AIの適正運用

2025年10月、信頼される質の高いコンテンツを提供しAI技術を安全かつ責任ある形で活用するため、**テレビ朝日 AIポリシーを策定**しました。公平で透明性の高い運用を徹底し、プライバシー保護・セキュリティ強化・多様な文化や価値観を尊重したコンテンツ制作を推進していきます。

### 相談窓口の拡充とコンプライアンスの徹底

2025年4月よりグループ会社共通の「**社外相談窓口**」を新設しました。既存の窓口とあわせ、相談内容などに応じて適切な窓口を選択できる体制を整備しています。各窓口においては、匿名性の確保および相談者の保護を徹底し、安心して相談できる環境づくりに努めています。寄せられた相談に迅速かつ適切に対応し、職場環境の改善につなげることにより、グループ全体のコンプライアンスの徹底を図っています。

### 放送倫理の向上・公正な報道・取引適正化

考査事例勉強会を年3回開催し、社員・スタッフのみならずグループ会社・系列局から**延べ3,000人超が参加**しました。考査委員会（年10回）では計81事例を取り上げ、うち23事例が「差別・人権・ジェンダー平等」に関するものでした。

制作費監査チームは**RPA・AI-OCRを活用**して全役職員の経費使用をチェック。**取適法（旧下請法）**の2026年1月施行にあたり弁護士を招いた全社勉強会を実施。報道局では公正・正確な報道の実現のため**人権・放送倫理研修**を定期的に実施しています。

### 統合報告書2025の公開

#### 経営計画の成果とサステナビリティを開示

2026年3月に「テレビ朝日ホールディングス統合報告書2025」を公開。「経営計画2023-2025」の成果を中心に、成長戦略・事業活動・サステナビリティの取り組みなどを体系的に整理しています。



▲統合報告書2025

### 情報セキュリティ体制の強化

#### IT-BCP策定・サイバー攻撃への防御力を強化

ランサムウェア被害時の事業継続を目的としたIT-BCPを策定。標的型攻撃メール訓練・eラーニング・サイバー攻撃演習を実施。情報セキュリティ系列会議に約90名が参加。グループ各社の経営層レベルのセキュリティ責任者体制を整備。

### 自己検証番組「はい！テレビ朝日です」

#### 毎月の番組審議会を視聴者と一緒に考える場に

日曜あさ5時～「みなさまと一緒にテレビを考える」をテーマに、毎月開催の放送番組審議会では有識者が審議する様子を放送。視聴者との信頼関係を継続的に構築しています。

# グループ会社 主な取り組み

## 地球の未来への貢献

### SDGs関連番組の放送 (BS朝日)

「**バトンタッチSDGsはじめてます**」：SDGsに取り組む人々に密着し、課題解決への苦難や気づきに触れ、誰もが明日から一歩踏み出せるような、気持ちの“バトン”を届けるドキュメンタリー番組です。

「**つながる絵本～for SDGs～**」：日本の企業や学校、NPOなどの取り組みに光をあて、SDGsの17の目標からつながるより良い未来への物語を子どもが絵本を読み進めるように展開し、難しくなりがちなSDGsを分かりやすく伝えます。



「**地球クライシス 第13弾**」 「**ウェルビーイング、みつけた**」  
詳細はP5をご参照ください。

### 「アースデイ東京2025」にブース出展 (BS朝日)

捨てられる野菜の皮やソーラー電池を利用したワークショップを実施し、2日間で小学生以下の子どもたちを中心に100名以上が参加しました。SDGs関連番組の紹介を含め、環境に関する問題提起を行いました。併せて番組に関連した農家や企業の方を誘致し、マルシェ等も実施しました。

### 平井 大のビーチライブ「THE BEACH TRIP」(テレビ朝日ミュージック)

「プラスチックフリーイベント」を目指し、ペットボトルの削減のため、プレミアムウォーター株式会社とのパートナーシップにより会場内にウォーターステーションを設置しました。  
マイボトルや飲み終わったペットボトルを持参した来場者に、無料で天然水を提供しています。

### 「エシカル55」(日本ケーブルテレビジョン)

JCTVエシカル55宣言(持続的で人にやさしい社会を実現するための行動指針)に伴い、全社でエシカルアクションを導入し、若手社員によるEthical Magazineの配信を行っています。



## すべての人が活躍する未来の創造

夏休み職業体験「**サマーフェスティバル**」(テレビ朝日映像)  
近隣小学校や同社で働くスタッフの子どもを対象とした夏休み職業体験プログラムを実施しました。(今年度3回目)



### アニメ塾「サマーキャンプ」(シンエイ動画)

将来アニメーターを目指す学生などを対象に、約1ヶ月の「アニメ塾」を開催。実践的な学びの場を提供し、クリエイターの育成に貢献しています

## 人に優しくともに生きる

### ボッチャの大会配信(文化工房)

日本ボッチャ協会の「一緒があたりまえの社会にする」の理念に共感し、日本ボッチャ選手権大会、全国ボッチャ選抜甲子園など、パラスポーツ・ボッチャの大会を配信しています。

テレメンタリー2024「**WITH YOUR LIFE ～私にしかできない幸せの選択～**」(フレックス)  
詳細はP14をご参照ください。

「**日本のチカラ ママの夢は金メダル ～音のない世界に生きて～**」(テレビ朝日映像)  
詳細はP14をご参照ください。

## テクノロジーで新しい未来へ

### J-Tac Pro (テレビ朝日クリエイト)

詳細はP13をご参照ください。

## 地球の未来への貢献

- 国連・メディア共同キャンペーン「1.5℃の約束」に継続参加。SDGsウィークプロジェクトを年2回継続開催
- 東京ドリームパーク 再エネ100%を目標に再エネ証書の発行へ
- art to ART Projectを発展させ、美術廃材ワークショップを新展開。多角的なコンテンツを継続発信
- Scope1・2に加えて、Scope3の算出を進め、テレビ朝日の放送事業関連のGHG排出原単位を開示予定

## すべての人が活躍する未来の創造

- 「Tech Kids Grand Prix」「Girls Meet STEAM」「JSEC」「FUTURE TALENT STUDIO」など、次世代活躍推進の取り組みを継続して実施する
- SDGs×ポッチャ（ポッチャ マンスリートーナメント in SHIBUYA）で地域共生・多様性のある場をさらに成長させていく
- 館内見学・出前授業・テレビ塾を通じた学びの機会の提供も展開していく

## テクノロジーで新しい未来へ

- AI活用のプロポーザル収集・通知ツールを発案し、系列局4社と意見交換を経てノウハウを無償共有する予定
- グループ会社を集めた情報交換の場を設置し、DX活用・業務効率化のグループ底上げを推進
- AIやリモート制作など既存ツールをさらに現場に馴染ませ、現場の負担軽減・効率化につながる活用を継続検討

## 人に優しく共に生きる

- エンゲージメントサーベイ実施（2025年度末）
  - ▶ 人材育成・職場環境改善施策の検討・推進
  - ▶ 経営計画「START UP テレ朝!!」を支える人財基盤の強化を順次スタート
  - ▶ 働きがいの向上と持続的な組織活性化
- 「健康経営優良法人」認定に向けた取り組みを推進する
- 取引先を対象とした人権デュー・デリジェンスを実施

## いつまでも信頼される会社に

- 系列局と連携したガバナンス・コンプライアンス推進体制の構築
- カスタマーハラスメント対策の義務化に伴い具体的な対策と研修での周知を推進
- AI監査システムの導入に向けた準備を継続。不正防止を含めたコンプライアンスの推進と職場環境改善を図る
- 情報開示の充実・透明性の向上を継続し、視聴者・社会からの信頼に応える体制を堅持していく